

失敗

校長 武井 正明

先日、斎藤先生から「今度、広報委員会が先生方の『失敗』を訊かせていただきに来ますので、よろしく願います」と依頼があった。そのお題なら、饒舌に喋れそうだ。

自慢じゃないが、失敗は数限りなくある。試験に関するやつは山ほどあるが、時期が時期だけに、今回はやめておこう。

直近のやつは、やっぱり去年秋の「車に入れキー」だな。あれは、ほとんど自分が嫌になった。「途方に暮れる」とは、まさにあのことを言う。涙も出なかった。

そして、あれはもう13年昔。電車の乗り間違えをした。

新潟まつりの夜。東京から新潟の亀貝に帰省した親友と新潟古町で落ち合って飲んだ。楽しくてちょっと飲み過ぎた。いい気分で万代橋もふたりで渡って新潟駅まで歩いた。じゃあまたな、と言って別れた後、信越線のつもりが白新線の最終に乗ってしまった。

あれ？いつもと進む方向が違うな、と思った時はもう、あとの祭りだった。あちゃー、やっちゃった。これはもう、とにかく泊まれる場所が見込める終点まで乗るしかないとなら、新発田で降りた。親友が持たせてくれた手土産は、どこかに置き忘れてしまった。電話の向こうから、妻の心配が伝わってくる。やってしまった…参ったな…。

新発田駅前真っ暗。もう深夜だったが、灯りの点いている旅館を一軒見つけた。一縷の望みをもって訊いてみたが、今日はもう満室だと断られてしまった。

本当に困った。でも夏で助かった。駅前にはバス停があった。その長椅子に仰向けに真っ直ぐ寝て、眼鏡を外して椅子の下に置いた。…これが悪くない。

けっこういけるじゃないか。この歳になって今夜は野宿か…星も見えない真っ黒な空を見ながらウトウトし、そのまま眠ってしまった。

新聞配達バイクで目が覚めた。一瞬、なぜ自分がここにいるのかわからずハッとした。

もし夜、暴漢に襲われていたら、と思うとゾッとした。当時全国各地で「おやじ狩り」なんてのが流行っていた。あんなのにやられたら、ひと溜りもない。自分は大きな団体の割に、肝っ玉は呆れるほどちっちゃい。平和な新発田でよかった。

そして、目の前の景色を見て愕然とした。

実は昨日の旅館の先に、大きなビジネスホテルがあったのだ。真っ暗で見えなかった。あそこで泊っていたら、もっと快適に過ごすことが出来たのに。

帰宅して妻に散々叱られた。以来、深酒と乗り違えはしていない。

失敗は、しないに越したことはありません。丁寧慎重に、そして油断大敵です。